

「コルダン」(炭化コルク断熱材)の施工方法

概要

炭化コルク「コルダン」はボード状の断熱材であり(大きさ:915×610mm)、その形状や大きさを考慮した施工方法が求められます。

大まかには切断ロスの少ない「外貼断熱」に適した断熱材ですので、設計段階から断熱の方法を考慮してください。

もちろん、切断ロスは多いですが「充填断熱」も可能ですので、図面などを参照していただき、適切に施工してください。

1. 外貼断熱

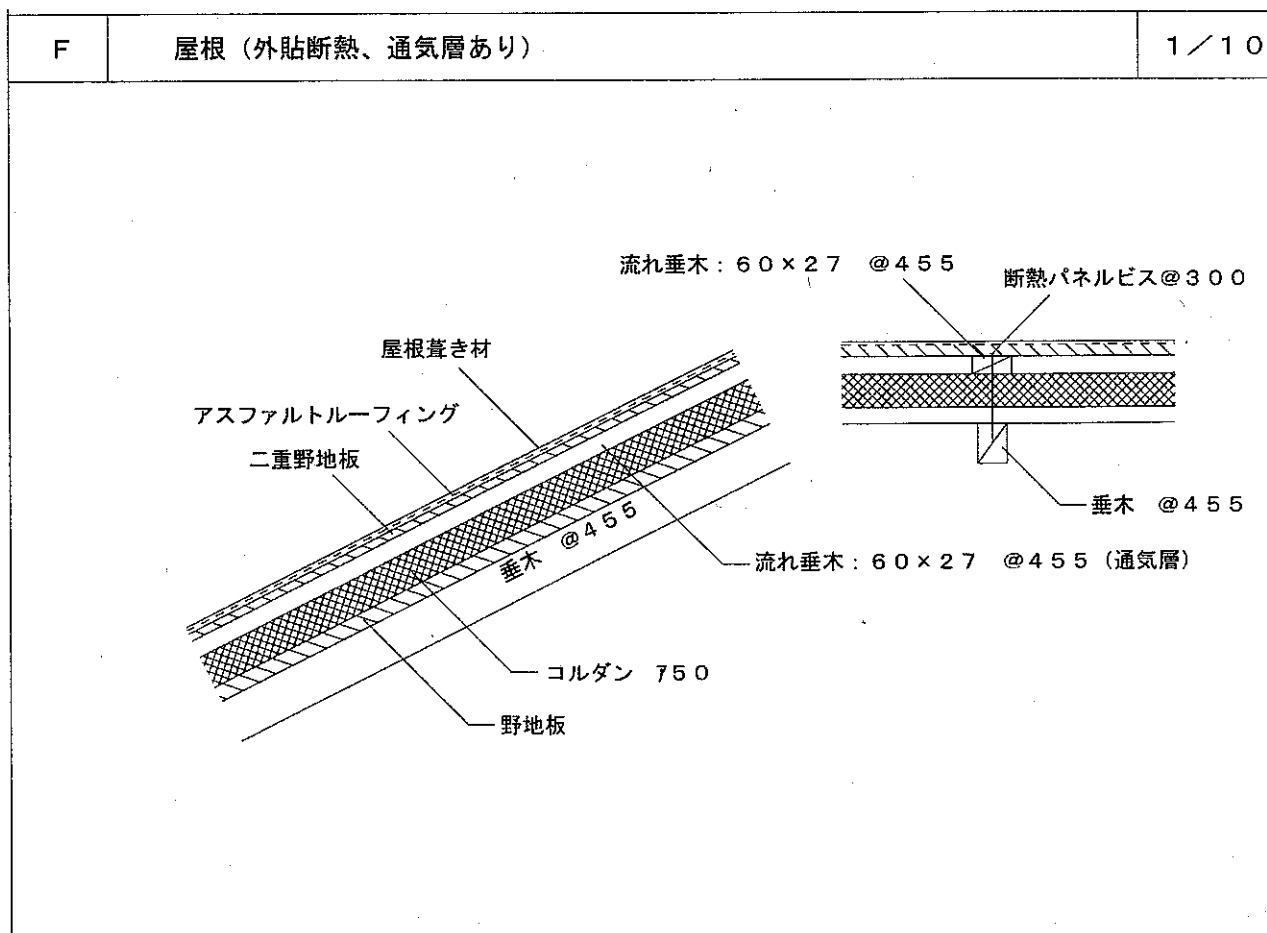
①屋根面/通気層あり

屋根面には夏場の遮熱、冬場の結露防止のために通気層を設けることをお勧めします。

野地板の上に炭化コルク「コルダン」を敷き並べ、流れ垂木→炭化コルク「コルダン」→垂木と貫通させるように断熱パネルビス(「パネリード」など)を打ちます。

流れ垂木の寸法分が通気層になります。

(図面F)



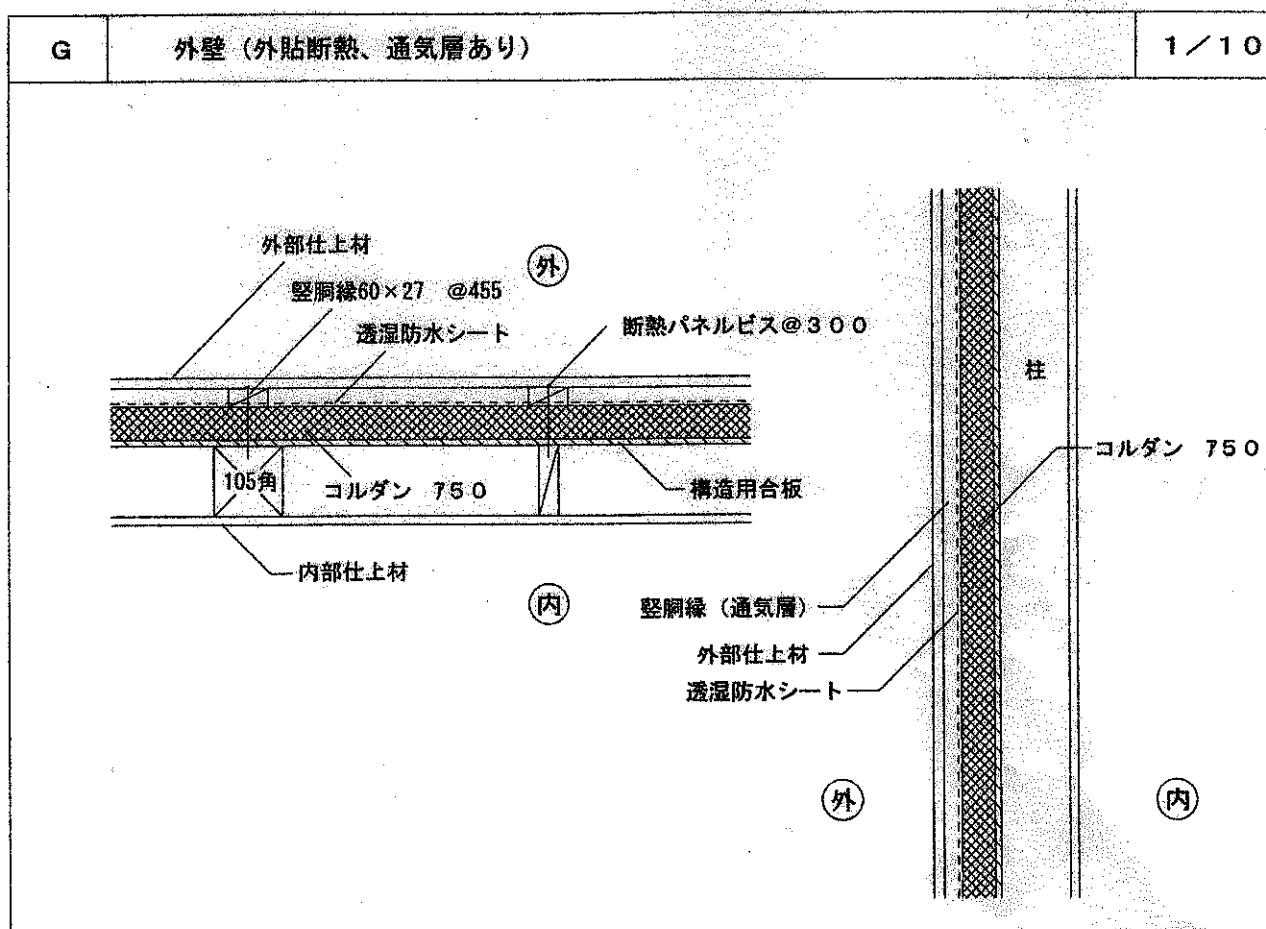
②外壁面／通気層あり

外壁面には夏場の遮熱、冬場の結露防止のために通気層を設けることをお勧めします。

一般的な外貼断熱と同様に、縦胴縁→炭化コルク「コルダン」→柱（間柱）と貫通させるように断熱パネルビス（「パネリード」など）を打ちます。

縦胴縁の寸法分が通気層になります。

（図面 G）

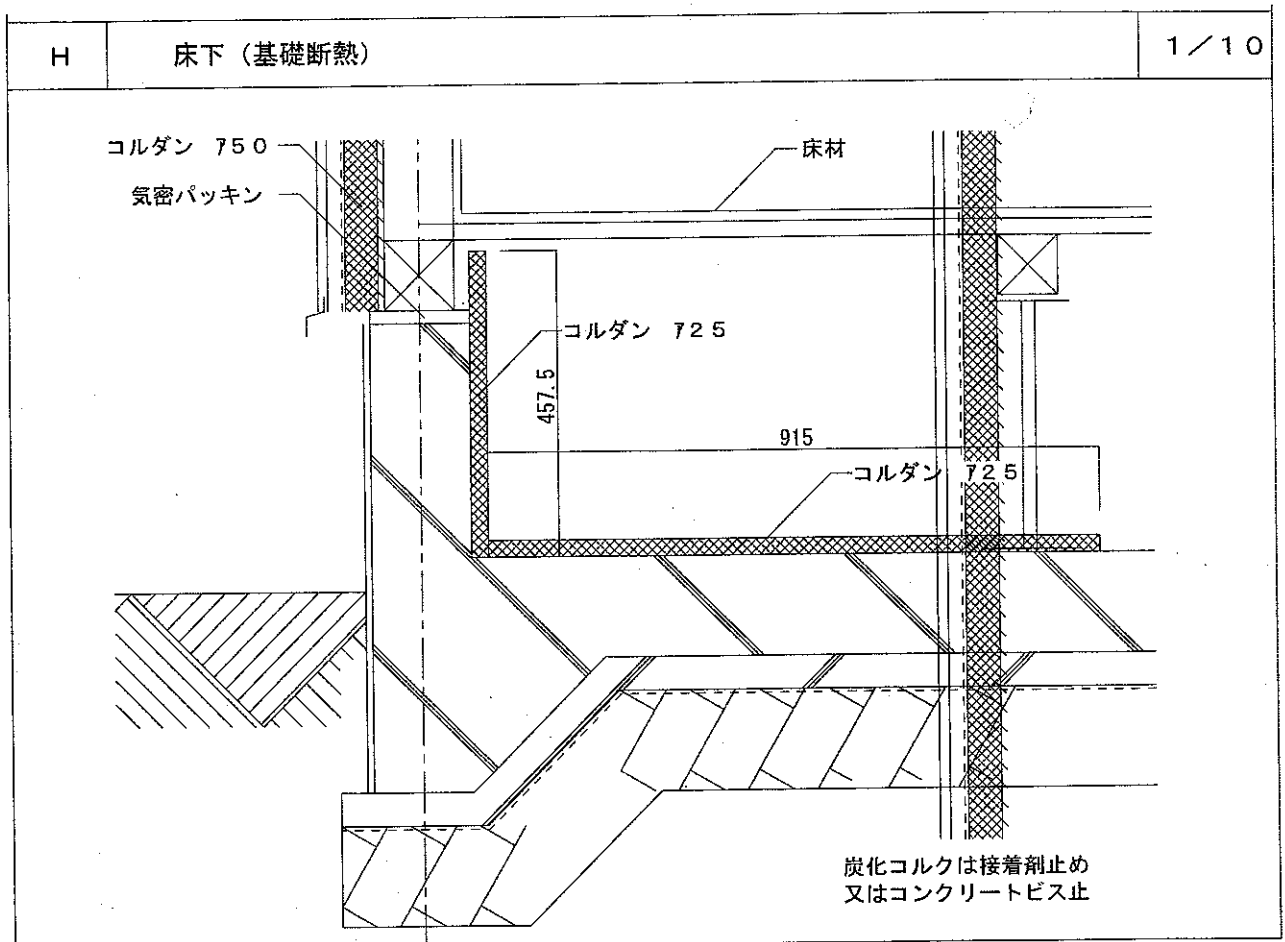


③床下／基礎内貼

外周面の立ち上がり基礎の内側及び盤面に炭化コルク「コルダン」を施工します。
基礎面と炭化コルク「コルダン」との間にできるだけ隙間ができないように、接着剤
などで施工してください。

基礎外貼は、シロアリの被害が心配されるので推奨できません。

(図面H)



2. 充填断熱

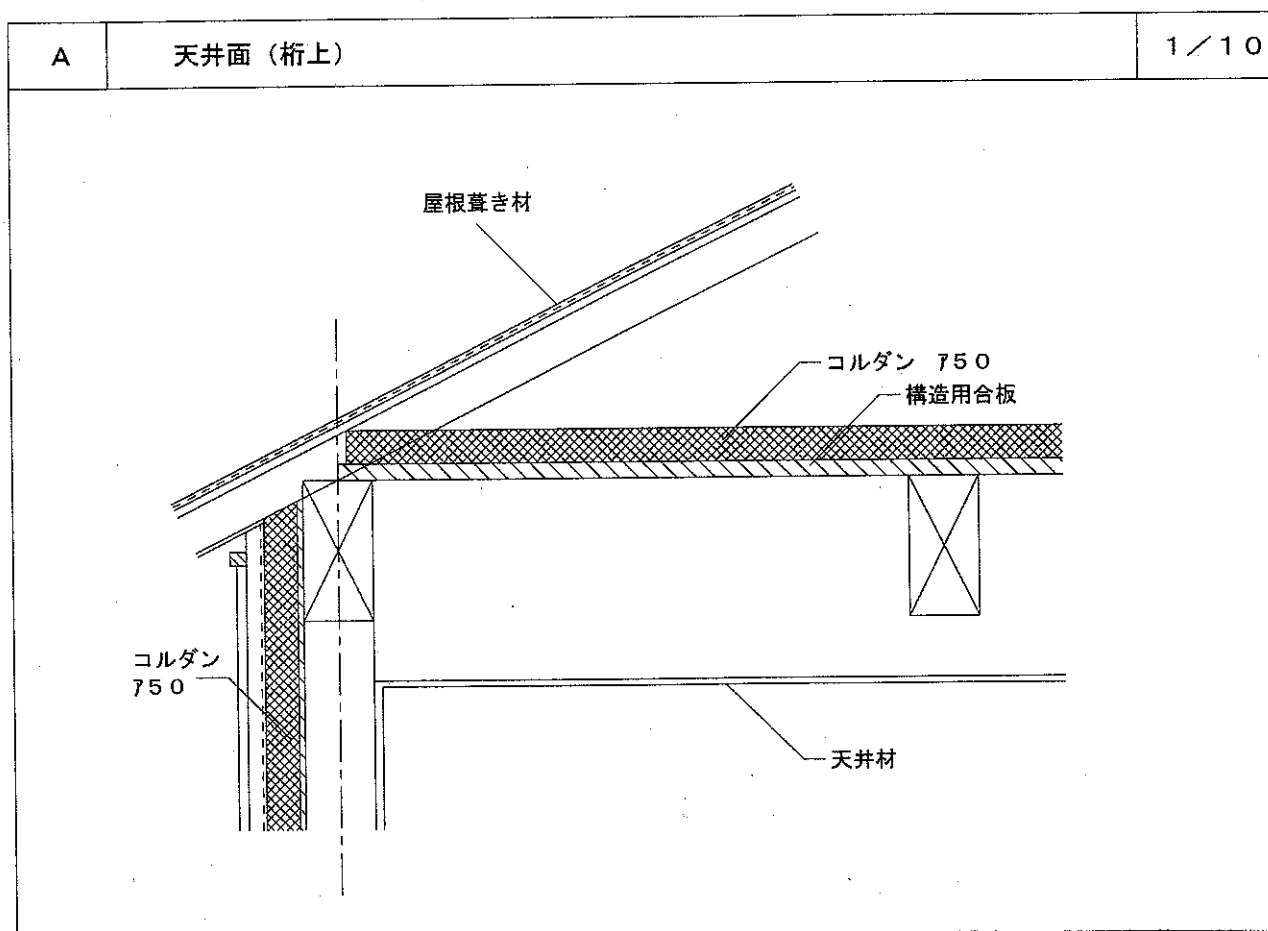
①天井面／天井裏（図面なし）

天井裏は吊木などの部材が入り組んでおり、ボード状の断熱材を適切に施工するのが難しい場所です。次に述べる桁上断熱にされるか、もしくは屋根面に施工する外貼断熱にされることをお勧めします。

②充填断熱／天井面／桁上

この方法は桁の上面に構造用合板などの面材を張り、その上に炭化コルク「コルダン」を施工していく方法です。切断ロスもなく、また剛性が取れる可能性があります。

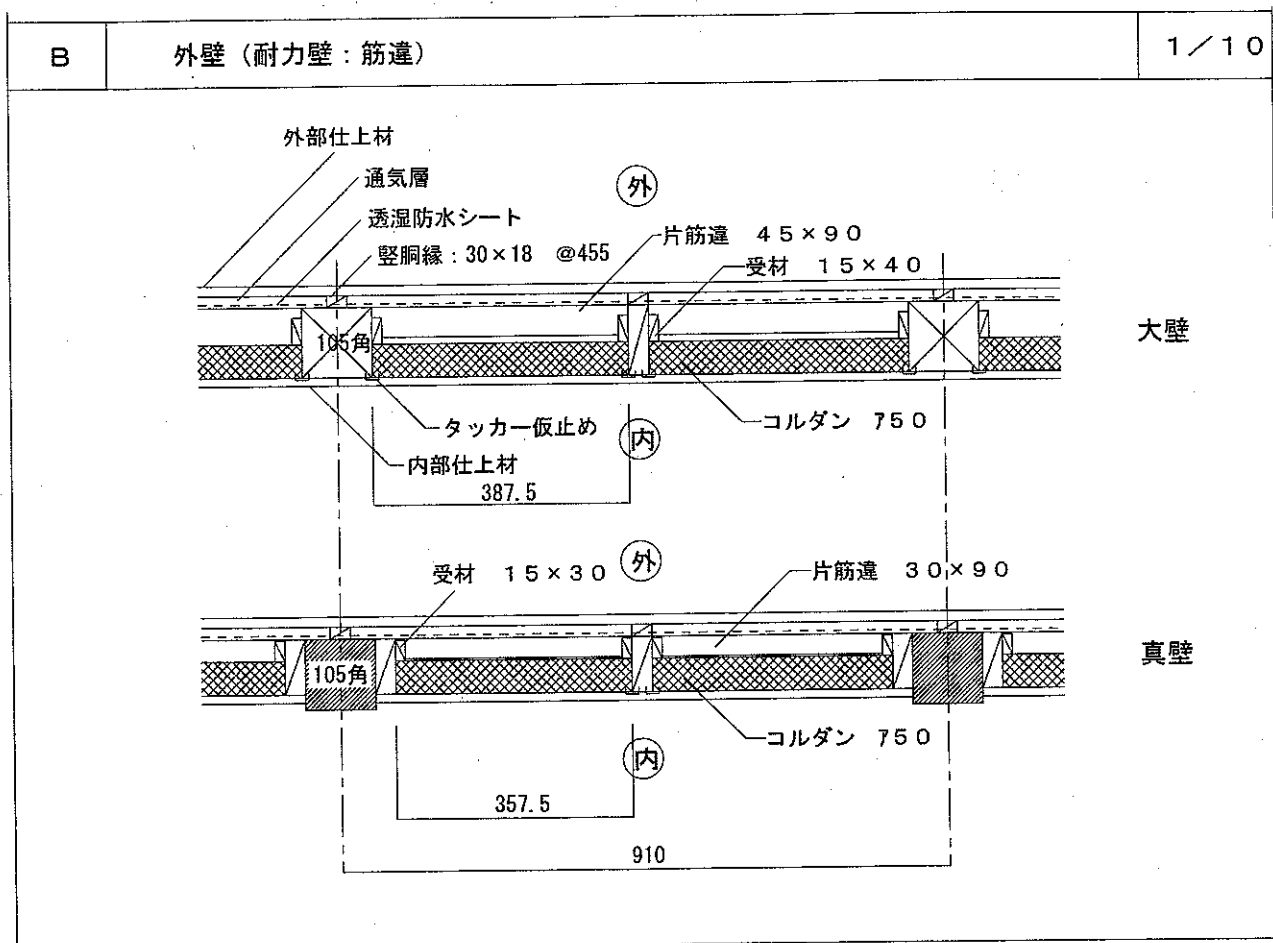
（図面A）



③外壁面／筋かいによる耐力壁

柱、間柱に炭化コルク「コルダン」の厚みを考慮して受け材を取り付け、炭化コルク「コルダン」をタッカーでとめ付けます。筋かいの寸法、柱の寸法、大壁・真壁の違いによって炭化コルク「コルダン」の厚みが制限されることにご注意ください。施工は難しくないと思われませんが、切断ロスが多い方法です。

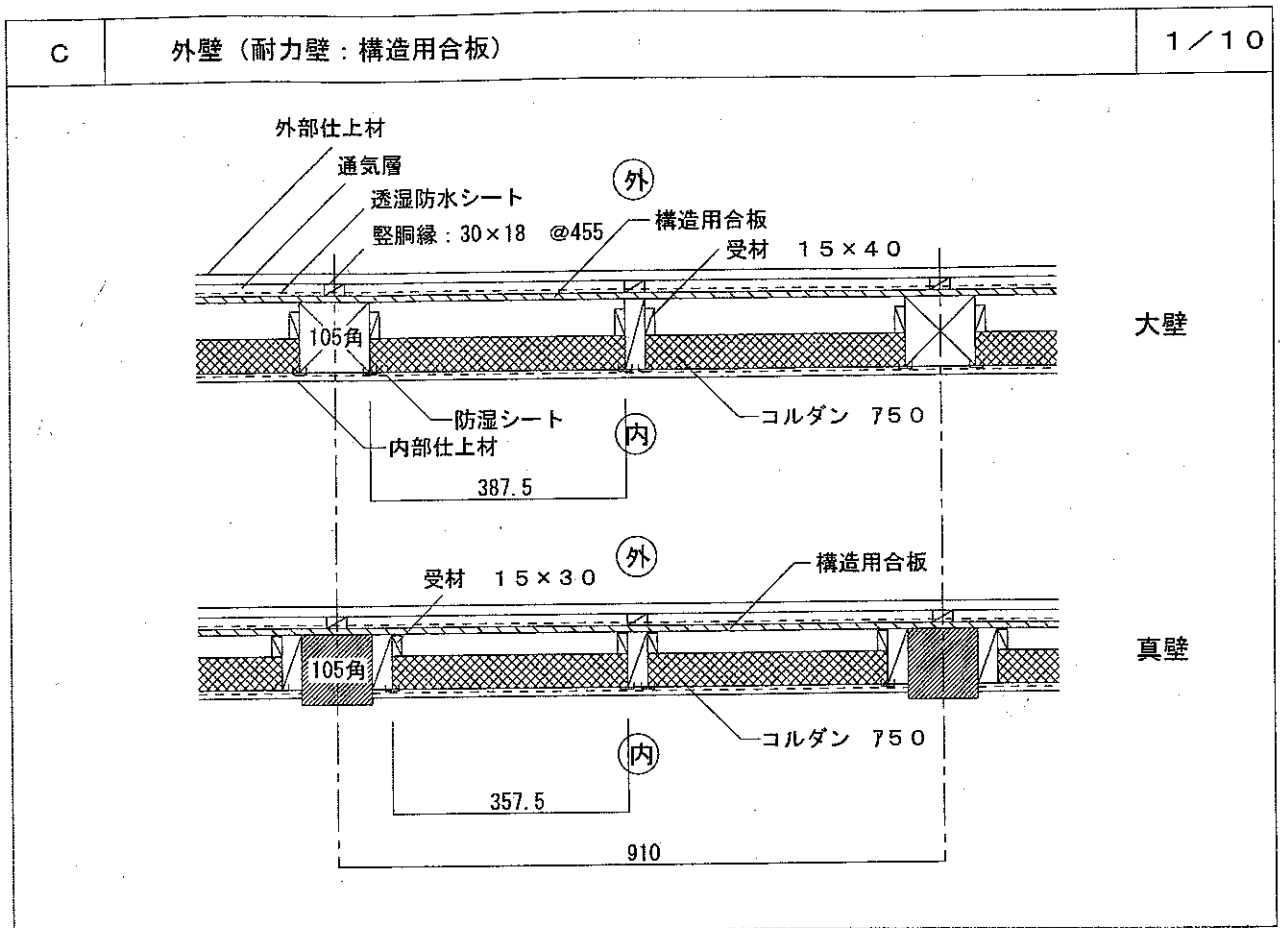
(図面B)



④外壁面／面材（構造用合板など）による耐力壁

柱、間柱に炭化コルク「コルダン」の厚みを考慮して受材を取り付け、炭化コルク「コルダン」をタッカーでとめ付けます。筋かいによる工法に比べ、炭化コルク「コルダン」の厚みが制限されにくくなりますが、切断ロスが多い方法です。

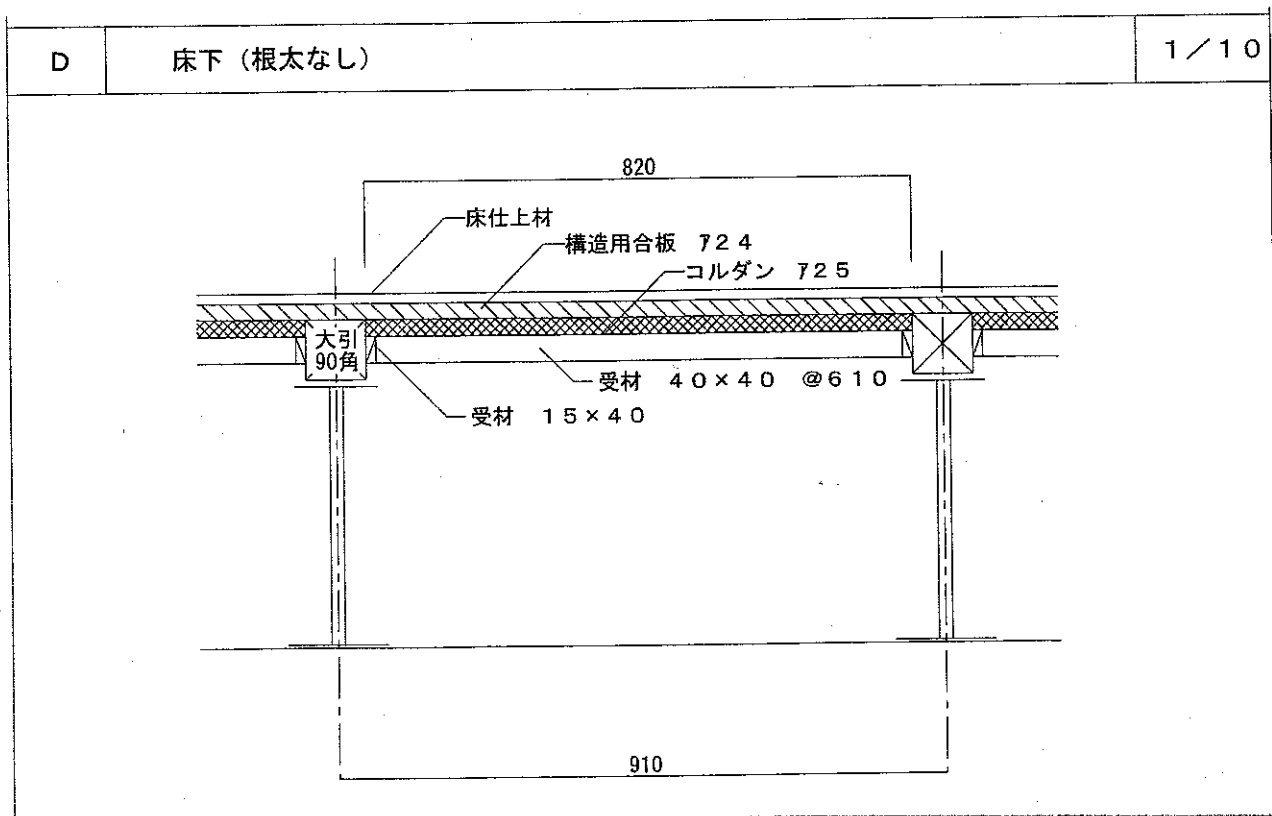
(図面C)



⑤床下／根太なし

大引き間に施工する方法です。大引きに炭化コルク「コルダン」の厚みを考慮して受材を取り付け、また垂れ防止のための受材を大引き間に渡します（610mmピッチ程度）。炭化コルク「コルダン」はタッカーなどでとめ付ける必要はありません。なお、切断ロスが多い施工方法になります。

（図面D）



⑥床下／根太あり

根太間に施工する方法です。一般的なボード状断熱材と同様に、根太に保持金物（「インバータックル」など）を取り付け、その上に炭化コルク「コルダン」を置いていきます。一般的な根太寸法、根太ピッチの場合は、炭化コルク「コルダン」のちょうど半分の寸法に切断すればよく、切断ロスが少ない方法です。

（図面 E）

